

松本 克己教授 業績目録

【著 書】

- 1967, On the Vowel System of Ionic-Attic: A Diachronic Phonological Study,
Dpt. of Linguistics, Kanazawa University.
- 1971, ギリシア語の歴史, 『言語の系統と歴史』: 111-139 (分担執筆).
- 1981, ギリシア・ラテン文字の発展, 『世界の文字』 (大修館書店): 73-106 (分担執筆).
- 1985, 言語と民族, 『ヨーロッパ文明の原型』 (山川出版): 157-214 (分担執筆).

【論 文】

- 1958, ホメロスにおけるExplicative Particle『金沢大学法文学部論集 文学編』6: 80-92.
- 1959, イーリアス第24歌のいわゆる新しさについて『西洋古典学研究』7: 65-72.
- 1963, 言語の動きの二つの相 -SyntagmaticaとParadigmatica: 文法の基礎づけのための試論『金沢大学法文学部論集 文学編』11: 95-131.
- 1964, ギリシア語の時称体系について: 特にphe^hmiの活用を中心に『金沢大学法文学部論集 文学編』12: 79-104.
- 1966, イオニア・アッティカ方言の母音体系について: 通時的音韻的考察『金沢大学法文学部論集 文学編』14: 78-147.
- 1970, ギリシア語における*sの消失をめぐる方言史的考察『金沢大学法文学部論集 文学編』18: 23-76.
- 1972, アイオリス方言の性格とその系統について『現代言語学』(三省堂): 689-703.
- 1972, ホメロスの言語の方言的・年代的諸相『西洋古典学研究』20: 20-39.
- 1973, エーゲ海域におけるギリシア語前の言語層の問題—Kretschmerの学説とその展開

- をめぐって『金沢大学法文学部論集 文学編』20: 45-97.
- 1975, 印欧語における統語構造の変遷：比較類型論的研究『言語研究』68: 15-43.
- 1975, 古代日本語母音組織考—内的再建の試み『金沢大学法文学部論集 文学編』22: 83-152.
- 1975, 上代語の母音組織『毎日新聞』（夕刊）昭和50年1月23日（第7面）.
- 1976, 日本語の母音組織『言語』5-6: 15-25.
- 1976, 万葉仮名のオ列甲・乙について『言語』5-11: 72-80.
- 1981, 印欧祖語の子音組織：類型学的考察『言語』10-3: 84-94.
- 1981, エミール・バンヴニスト『言語』10-5: 85-69.
- 1984, 言語史の再建と言語普遍『言語研究』87: 5-32.
- 1984, クサントスのレートーオン出土の三言語併用碑文とリュキア語研究の現状—特にその統語構造のを中心に—『オリエント』26: 95-118.
- 1985, 印欧アナトリア語派におけるリュキア語の位置—特にリュキア語の複数主格及び属格語尾をめぐって『京都産業大学国際科学研究所所報』6-2: 24-53.
- 1986, ミノア文字研究の現状—特に線文字Aを中心に—『京都産業大学国際科学研究所所報』7-2: 29-67.
- 1986, 能格性に関する若干の普遍特性：シンポジウム「能格性をめぐって」を締めくくるために『言語研究』90: 169-190.
- 1986, 歴史言語学入門『言語』15-8: 152-159.
- 1986, 言語史にとっての60年『言語生活』410: 14-21.
- 1986, 通時的にみたことばの記述：歴史言語学の原理と方法『応用言語学講座』（明治書院）2: 3-21.
- 1986, ギリシア語の動詞組織『国文学解釈と鑑賞』51-1: 169-171.
- 1987, 語順のタイプとその地理的分布：語順の類型論的研究その1『文芸言語研究（言語編）』（筑波大学）12: 1-114.
- 1987, 日本語の類型論的位置づけ：とくに語順の特徴を中心に『言語』16-7: 42-53.
- 1987, 語順の話『ぶっくれっと』（三省堂）NO.70: 10-15.
- 1987, 日本語と印欧語『国文学解釈と鑑賞』53-1: 41-46.
- 1988, 印欧語の世界（印欧言語学への招待1）『言語』17-1: 15-21.
- 1988, 印欧語の母音組織（印欧言語学への招待2）『言語』17-2: 87-91.

- 1988, 印欧語の母音交替と喉音学説 (印欧言語学への招待3) 『言語』17-3: 93-97.
- 1988, 印欧語の語順のタイプ (印欧言語学への招待4) 『言語』17-4: 88-93.
- 1988, 印欧語の形態法 - とくに名詞の格組織 - (印欧言語学への招待5) 『言語』17-5: 104-109.
- 1988, 印欧語の名詞形態法の起源 (印欧言語学への招待6) 『言語』17-6: 86-93.
- 1988, 孤立無縁の言語 エトルリア語 『言語』18-8: 128-133.
- 1988, 印欧語における能格性の問題 『東京大学言語学論集 '88』: 1-19.
- 1989, 語順のタイプと線状化の原理: 語順の類型論的研究その2 『文芸言語研究 (言語編)』 (筑波大学) 15: 1-67.
- 1990, 言語類型論と歴史言語学 『国文学解釈と鑑賞』55-1: 6-11.
- 1991, Sprachbund Phenomena in Europe: An Attempt to Outline "European Areal Features", KANSAI LINGUISTIC SOCIETY 11: 3-20.
- 1991, 主語について 『言語研究』100: 1-41.
- 1992, 犬も歩けば棒に当たる - 言語類型論 - 『言語』21-7: 56-59.
- 1992, Distribution and Variations of Word Order - A Typological and Areal Study, KANSAI LINGUISTIC SOCIETY 12: 155-164.
- 1993, 言語現象における中心と周辺 『国文学解釈と鑑賞』58-1: 6-13.
- 1993, 日本語における動詞活用の起源 『語源探求』4 (出版予定).
- 1993, 数の文法化とその認知的基盤 『言語』22-10 (出版予定).

【翻 訳】

- 1960, エウリピデス「アンドロマケ」, 『ギリシア悲劇集』3 (人文書院): 152-189.
- 1960, オウィディウス「名婦の書簡」(抄訳)「黒海からの便り」, 『世界名詩大成』1 (平凡社): 174-188.
- 1963, オウィディウス「名婦の書簡」(撰), 『世界短編文学全集』8 (集英社): 149-169.
- 1965, エウリピデス「イオン」, 『世界古典文学全集』9 (筑摩書房): 217-251.
- 1966, オウィディウス「名婦の書簡」(全訳), 『世界文学大系』69 (筑摩書房):

305-349.

- 1969, オウィディウス「転身譜」, 『世界文学全集』2 (筑摩書房): 123-440.
1986, R. ヤーコブソン/L. ウォー『言語音形論』, 岩波書店 pp. xiii+349.
1992, B. コムリー『言語普遍性と言語類型論』ひつじ書房 (共訳)

【書評】

- 1973, King, R.: Historical Linguistics and Generative Grammar, Prentice Hall
1969, 『言語研究』63: 74-88.
1981, Leumann, M.: Lateinische Laut- und Formenlehre(Lateinische Grammatik 1)
München: Beck 1977, 『西洋古典学研究』29: 123-126.
1983, Risch, E./Mühlestein, H. (eds.): Colloquium Mycenaeum, Genève: Université
de Neuchatel-Librairie Droz 1979, 『西洋古典学研究』31: 93-97.
1983, Studi Micenei ed Egeo-Anatolici, Fasc. 20: Anniversario della Decifrazione
della Lineare B (1953-1978), Roma 1979, 『西洋古典学研究』31: 93-97.
1984, Georgiev, V. I.: Introduction to the History of the Indo-European Lan-
guages, Bulgarian Acad. of Sciences, Sofia 1981, 『言語研究』85: 148-157.
1984, Teodorsson, S.-T.: The Phonology of Attic in the Hellenistic Period,
Göteborg 1978, 『西洋古典学研究』32: 108-113.
1984, Threatte, L.: The Grammar of Attic Inscriptions, Vol. 1: Phonology, Berlin:
Walter de Gruyter 1980, 『西洋古典学研究』32: 108-113.
1985, Heubeck, A./Neumann, G. (hrsg.): Res Mycenaeae: Akten des 12 International-
en Mykenologischen Coll., Vandenhoeck 1983, 『西洋古典学研究』33: 99-101.
1988, Hock, H. H.: Principles of Historical Linguistics, Mouton de Gruyter 1986,
『英文学研究』65-1: 140-144.
1989, Shibatani, M. (ed.): Passive and Voice, Amsterdam: J. Benjamins 1988,
『言語』18-9: 92-95.
1990, Kazuhiko, Y.: The Hittite Medio-Passive Endings in -ri (Walter de Gruyter,
1990), 『言語研究』98: 108-113.

- 1991, 崎山理／佐藤昭裕（編集代表）『アジアの諸言語と一般言語学』三省堂 1990, 『言語』20-1: 156.
- 1991, Duboux, Y., Palaima, Th. G. & Bennett, J. (eds.): Problems in Decipherment, Peeters, Louvain-La-Neuve, 1989, 『西洋古典学研究』39: 103-106.
- 1991, 大城光正／吉田和彦『印欧アナトリア諸語概説』大学書林 1990, 『オリエント』34-1: 138-143.

【その他】

- 1970, オウィディウスの転身譜－作者の意図－, 『世界文学全集』月報39（筑摩書房）: 10-12.
- 1981, アルキメデスのドーリス方言, 『科学の名著』9月報（朝日出版社）1981: 5-7.
- 1986, ことばのブックガイド: ヘルマン・パウル『言語史原理（上・下）』, 『言語』16-6: 58-59.
- 1987, 第14回国際言語学者会議報告, 『言語研究』92: 166-179.
- 1989, わが学問事始め: 西洋古典から言語学へ, TSUKUBA: STUDENTS NO. 249. (1989. 9. 21): 2.
- 1992, ソシュールの『印欧語原始母音組織に関する覚え書き（言語についての本の話）』, 三省堂『ぶっくれっと』96: 41-42.

【百科事典等執筆】

『小学館新百科事典』1983

エトルリア語　ギリシア語　グラモン　死語　ジーフェルス　シュライヒャー
 祖語　デルブリュック　ドイツ文字　トカラ語　トムセン　比較言語学
 ヒッタイト語　フェニキア語　ブルークマン　ポップ　メイエ　ラスク
 アルス・アマトリア　オウィディウス　サチュリコン　転身譜　ペトロニウス

『言語学大辞典 世界言語編』三省堂 1988-1992

アナトリア諸語 エトルリア語 ウラルトゥ語 カリア語 ギリシア語
近代ギリシア語 古代マケドニア語 象形文字ルウィー語 トラキア語
ハッティ語 ヒッタイト語 フルリ語 パラー語 プリュギア語
ミュケナイ・ギリシア語 リュディア語 ルウィー語

『同術語編』三省堂 1993 出版予定

言語変化 ドリフト 文法構造の変化 文法化 統語法の変化 形態法の変化
類推 異分析 転換(品詞の) 牽引 接置詞 方格 ヴァッケルナーゲルの法則
音変化(音韻変化) 通時音韻論(史的音韻論) 音法則(音韻法則) 同化
異化 合流(併合、融合) 分裂(分化) イソクロニー 音素の消失(音脱落、
無音化) 音(素)の転化 代償延長 音の弱化 縮約 二重母音化 単母音化
語末音法則 語頭音法則 重音脱落 イオタシズム ツィタシズム ロータシズム
語末音省略 母音化 形態音素的变化 言語による先史研究(言語学的古生物学)
言語接触 言語連合(言語同盟) バルカニズム 収束 言語の混合 基層 上層
傍層